

18. 多文化共生について（問48～問49）

問48 豊橋市には2万837人(令和6年4月1日時点)の外国人市民が共に暮らしています。お住まいの地区に外国人市民が増加することをどう感じますか。

【あてはまるものすべてに○】

(n=2,313)

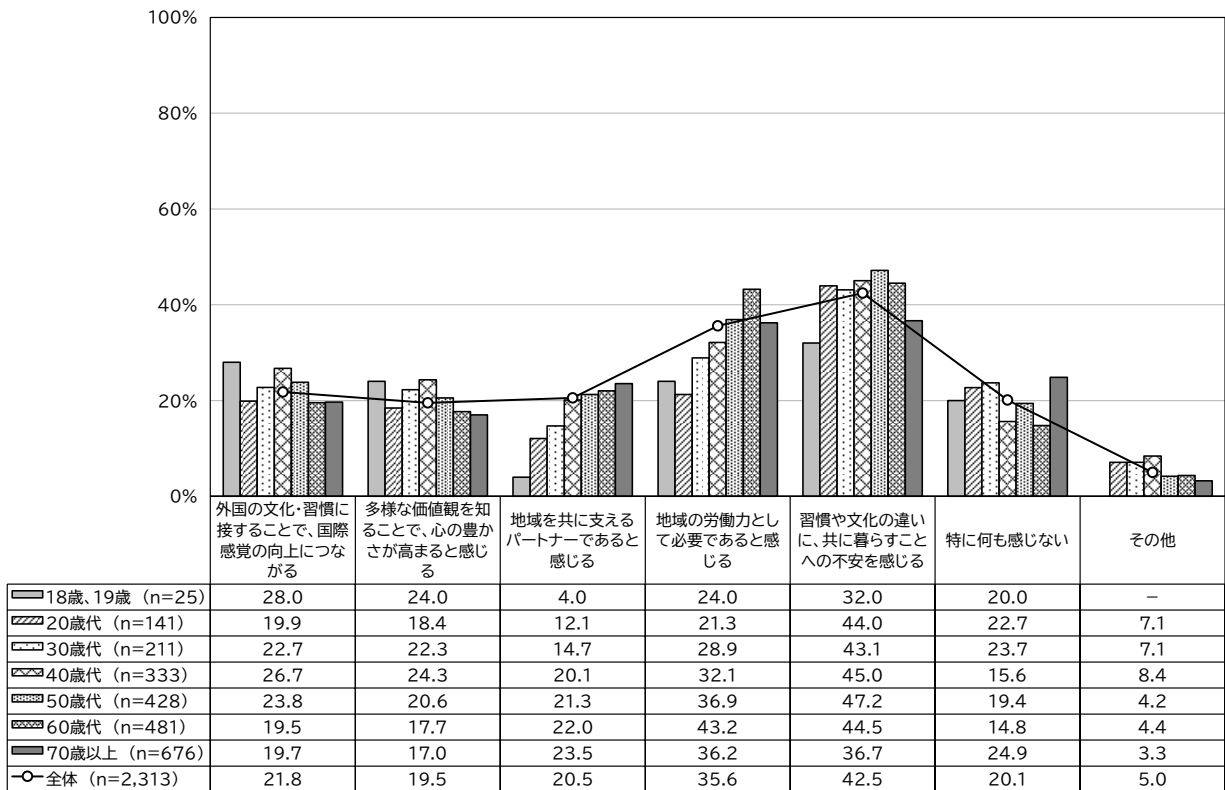
(1) 全体的傾向

「習慣や文化の違いに、共に暮らすことへの不安を感じる」と回答した人の割合が42.5%と最も高くなっている。次いで「地域の労働力として必要であると感じる」が35.6%となっている。

(2) 年代別にみた特性

すべての年代で、「習慣や文化の違いに、共に暮らすことへの不安を感じる」と回答した人の割合が32.0～47.2%で最も高くなっている。

なお、「地域の労働力として必要であると感じる」と回答した人の割合は、21.3～43.2%となっている。年代が上がるほど概ね高くなる傾向があり、40歳代以上では、32.1～43.2%と3割を超えている。



問49 外国人市民と共に暮らしやすい社会にしていくためには、どのような取り組みが必要であると思いますか。

【あてはまるものすべてに○】

(n=2,277)

(1) 全体的傾向

「日本の生活ルールや習慣、文化の違いについての周知」と回答した人の割合が81.7%と高くなっている。次いで「外国人市民のための相談体制の充実や、多言語での情報提供」が48.0%となっている。

(2) 年代別にみた特性

すべての年代で、「日本の生活ルールや習慣、文化の違いについての周知」と回答した人の割合が76.0~86.0%で最も高くなっている。なお、「外国人市民のための相談体制の充実や、多言語での情報提供」と回答した人の割合が36.9~55.8%、「外国人市民への日本語の学習機会の提供、外国人市民の児童・生徒の教育の充実」が32.0~44.4%となっており、ともに高くなっている。

